

飲食店などでクッキーを置かせてもらい、代金はかこの中の集金箱に……。作業所のクッキー工房スイーツベア（明石市大蔵天神町）が、そんなセルフ方式のクッキー販売を始めた。協力店は市内で7カ所にまで増え、「置きクッキー」の取り組みに支援の輪が広がっている。

（長尾亮太）

スイーツベアは、障害者が菓子作りを通して収入を得るとともに社会と関わる機会を——と、NPO法人こぐまくらぶ（同市朝霧南町2）が2017年に設立した。製造作業は、同法人の事業所・明石ウエスト（同市本町2）に通う身体、知的、精神障害者の約20人が交代で担う。

開設時、クッキーから始まった商品はドーナツなどが加わり、中でもプリンは同工房の売り上げの半分を占めるまでに成長した。

そんなプリン人気にクッキーも続かせようと、スタッフが販売促進策を練る中で「日持ちする「コーヒールに合う」とのクッキーの特長に注目。食後のデザート需要を狙い、飲食店での「置きクッキー」を発案した。

クッキー4個入りの1袋が100円（税込み）。プレーン、ココア、イチゴの3種類の味が楽しめる。昨春から開

障害者が作り 協力店で販売

「置きクッキー」好評

拓を始めた協力先は、イタリア料理店や喫茶店、市役所内のコンビニなどへと少しずつ広がった。

家庭料理のキッチンすみれ（同市相生町2）では、今月初旬からかごを設置。男性客（41）が「甘すぎず、食べやすい。子どもたちへの土産にしたい」と5袋を買い込む姿に、作業所で日々、クッキー作りに励んでいる女性（31）は「あ

拓したからもっと仕事を頑張りたい」と笑顔を見せた。作業所スタッフの山田紀子さん（48）は「多くの人に一度味わってほしい。気に入って工房に足を運んでもらえたらうれしい」と話している。協力店も募集中。

スイーツベア（☎078・939・2650）は月々金曜の午前9時半～午後3時に

作業所 市内7カ所に拡大 発案



クッキーを手にするスイーツベアのメンバーらと、設置に協力するキッチンすみれの店主渡辺美行さん(右)＝明石市相生町2